

和田三造 《博多繁昌の図》ができるまで

The Creating Process of WADA Sanzo's "Scene of Prospering Hakata"

会期 2021年8月3日|火|－10月17日|日|

会場 近現代美術室 A



左：和田三造《博多繁昌の図（習作）》1952-1958年 油彩、画布
右：和田三造《博多繁昌の図》1958年 油彩、紙



《博多繁昌の図》は、福岡市ゆかりの画家・和田三造（1883-1967）が1958年に発表した作品です。

本作には、江戸時代初期に商業都市としてにぎわう博多の町を舞台に、南蛮船の来航や町人と南蛮人の交流が描かれています。上空から見上げるような構図で隅々まで細かな描写が施された画面には、色彩学や染織工芸など多様な表現手法に関心を持っていた和田ならではの特色が見られます。

福岡出身の実業家・五代太田清蔵の注文に応じて制作された本作は、商業都市としての博多の歴史を示すとともに、街の発展を祈るものでした。博多の豪商の系譜に自らを重ねていた太田は、戦前に故郷の博多を主題とした絵画を制作することを和田と約束していました。1952年、和田はこの一大プロジェクトに取り組み始め、30年ごしの約束を果たしました。

本展では、この作品が完成するまでの過程に注目いただきます。当館では1977年と1992年に和田の作品約181点を受贈し、その中には《博多繁昌の図》とその習作37点が含まれます。今回はその一部を紹介し、習作と本画との関係から、和田の制作プロセスをご紹介します。

〔学芸員 忠 あゆみ〕



福岡市美術館
FUKUOKA
ART
MUSEUM

〒810-0051
福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051 (代表)
FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

和田三造《博多繁昌の図》ができるまで 関連年譜

作成にあたり中島順一編「和田三造年譜」（『和田三造展』図録、北九州市立美術館、1979年所収）、「和田三造年譜」（『和田三造展』図録、姫路市立美術館、2009年所収）を参考にした。

*のついた項目は《博多繁昌の図》《西都政庁の図》に関連する事項。

1883年	兵庫県朝来郡（現・兵庫県朝来市）に生まれる。
1896年	兄の宗英が福岡県大牟田市の鉱山業に従事したため、一家をあげて福岡市に転居。
1898年	福岡県立中学修猷館（現・修猷館高等学校）入学。 中学時代、玄洋社の付属柔道場である明道館へ通い、また新聞や雑誌の挿絵の臨写を盛んに行った。
1899年	画家になることを父に反対され、また中学で教師と衝突したため、福岡市を出奔し徒歩で東京へ向かう。東京では額縁店主の紹介で黒田清輝邸住み込みの書生となる。
	9月、白馬会洋画研究所に入所。
1901年	4月、東京美術学校西洋画科選科入学。
1905年	9月、白馬会創立十周年記念絵画展に出品した《牧場の晩帰》が白馬会賞を受賞。
1907年	第1回文部省美術展覧会（以下文展）出品作《南風》が二等賞（最高賞）を受賞。
1908年	第2回文展出品作《煒燦》が二等賞（最高賞）を受賞。同美術展無鑑査となる。
1909年	4月、文部省より美術留学生として海外に派遣され、アカデミー・コラロッシで洋画を学ぶ。 その後フランスを中心としてヨーロッパ各国を巡歴、工芸図案の研究に従事する。
1914年	5月、留学の帰途、美術工芸の研究目的でジャワ、ミャンマー、インド等に滞在。翌年帰国。
1916年	インドに再遊し、インド美術を研究する。
1918年	3月、南蛮絵更紗《海の幸》《山の幸》完成。日本橋三越本店で展示。
1923年	このころから本格的に日本画の制作に取り組む。 関東大震災のため、六曲屏風の大作をはじめ五十余点が焼失する。
1926年	朝鮮総督府新庁舎の中央ホールに壁画《羽衣》を制作。
1927年	日本標準色協会を創立し、色見本集「日本標準色カード500色」を制定。
1931年	陸軍省より満州事変記録画を委嘱される。
1932年	東京美術学校教授となり、図案科主任として図案実習授業を担当。
1944年	6月、東京美術学校教授を免ぜられる。軍の命令による学生の校庭の草むしりに反対を表明したため。

1945年	5月25日、空襲により赤坂の自宅全焼。留学中の作品を含む100余点の作品を焼失。
1948年	京都にアトリエを構える。
1951年	総合標準色票「色の標準」を完成。 *博多区・呉服町で福岡東邦生命ビルを建設中、陶磁器や銅銭などの遺物が発見される。平安時代の貿易港「袖の湊」の遺構と推測された。 *《博多繁昌の図》《西都政庁の図》構想が始動。 九州大学医学部教授の中山平次郎、その教え子の奥村武が参考資料を収集、参考図を作成し、和田に送る。 *《博多繁昌の図》《西都政庁の図》の制作開始。
1952年	大映映画「地獄門」（監督：衣笠貞之助）の色彩指導と衣裳デザインを担当。翌年アカデミー賞最優秀外国語映画賞および衣裳デザイン賞受賞。
1953年	*6月15日、福岡東邦生命ビル完成。同ビル7・8階に博多帝国ホテル開業。
1958年	*3月26日、《博多繁昌の図》《西都政庁の図》完成。 *4月14日、博多帝国ホテル大広間にて公開。 11月、文化功労者の表彰を受ける。 《海の幸》を補修する。
1959年	
1967年	8月22日、千代田区で死亡。84歳。
1969年	*博多帝国ホテル閉業。
1977年	*五代太田清蔵が《博多繁昌の図》《西都政庁の図》含む和田作品約150点を福岡市美術館に寄贈。
1992年	*六代太田清蔵が和田作品31点を福岡市美術館に寄贈。
1979年	*「和田三造展」（北九州市立美術館）開催。 《博多繁昌の図》《西都政庁の図》展示。
1987年	*平和台球場改修工事中に鴻臚館の関連遺構が発見される。
1989年	*福岡市美術館で《西都政庁の図》展示。
1993年	*「和田三造—大宰府と博多」（福岡市美術館）開催。

和田三造の画業

和田三造（1883-1967）は中学修猷館時代に画家を志して上京し、白馬会洋画研究所と東京美術学校西洋画科に学ぶ。西洋の伝統に基づいた写実描写と戸外の制作を重視するいわゆる外光派の表現を吸収し、1907年には船上の青年たちを描いた《南風》が第1回文部省美術展覧会の最高賞を受賞した。1909年から1915年の間文部省の特待生としてヨーロッパに留学中、装飾美術に関心を持ち、帰国途中にミャンマーやインドに渡って研究を深めた。この期間に目にした染織工芸の図案や技法についての知見を活かしつつ、画業の幅は複数のジャンルを横断しながら広がる。帰国後の1918年に彼は手描き更紗によるタペストリー《海の幸》《山の幸》を発表し、1927年には日本で初めてのカラーチャートを作成した。画家としての地位は向上し、和田は大学や官公舎の壁画など、特定の場所への設置を前提とした作品制作を依頼されるようになった。

制作・公開の経緯

1952年、和田は五代太田清蔵の依頼を受けて本作に着手した。和田にとっては久々の委託制作である。太田は修猷館出身で和田の10歳下の後輩である。2人は戦前から親交を持ち、故郷の博多を主題とした絵画制作を約束していた。この約束は、1951年に太田の所有するビルの建設現場（博多区・呉服町交差点付近）で博多が貿易都市だったことを示す遺跡が発掘されたことをきっかけに、実現に向けて動き出した。当時、東京で生命保険会社を経営していた太田が博多の豪商へ自らを重ね合わせていたこともあり、主題は黒田藩が筑前を治めていた時代の博多と、奈良・平安時代の大宰府に決まった。元福岡市長の河内卯兵衛を発起人として、九州大学医学部教授で考古学者の中山平次郎、教え子の奥村武氏が時代考証を行った。中山は大宰府と鴻臚館に関する資料を、奥村は「袖の湊」と推測されていたこの地に関する資料を「ミカン箱一杯」和田に送ったという。和田は弟子の草光信成・吉武妙子とともに7年間の歳月を費やして制作、1958年に完成した。作品は東邦生命ビル内の博多帝国ホテルの大広間に設置され、4月14日に除幕式が開かれた。

主題と表現の特色

本図の主題は南蛮貿易により賑わう商業都市としての博多の姿である。300×280cmの大画面には、俯瞰構図で博多湾周辺の地形、那珂川・石堂川（御笠川）に挟まれた博多区西北部の街の様子を見ることができる。街並みの描写は豊臣秀吉が整備した博多の町割を示す古地図とも一部符合する。紺色の海には貿易船と小舟が陸地を取り囲むように行き交い、画面中央の水路には小舟が浮かび、商人が荷物を載せて蔵へと荷下ろしをする。クリーム色で示される陸の部分は町人と南蛮人が交流している。画面下部は金雲で一部を覆われ、その隙間に虎やライオンを運んでいる南蛮人や2本の山笠の周囲に多くの人々が集っている姿などのユニークなモチーフも見つけられる。宝船のように様々な珍しいものを乗せた南蛮船の来航、南蛮人と人々の交流は、16世紀から17世紀の南蛮屏風の主題と通じる。これらの主題と表現手法からは、和田が西洋画由来ではない描き方に関心を持っていたことが窺われる。この関心は南蛮船で賑わう平戸港の風景をテーマにした《海の幸》にも見られるが、部分によって南蛮人が町人の3～4倍の背丈で描かれるなど、本図の造形表現はより大胆だ。

習作にみる制作プロセス

習作は約40点あり、完成に至るまでの苦闘の一部始終を語る。金縁の和紙に墨、鉛筆、水彩絵具で描かれている作品が多く、画面寸法は、42×27cmか80×55cm程度である。部分図には、本画の細部に関する細かな構想が示されている。例えば南蛮船のマストの形（No.1）、屋根の配色（No.2）、葉の幾何学的な処理（No.4）など、本画の装飾的な要素の元になる部分がここで決定している。部分図とは別に、南蛮人と町人と交流の場面を中心としたもの（No.8～12）、全体の構図があらかた決まっているもの（No.13～18）もある。画面が本画に比べ遥かに小さいため、地形の中にどのように町割を収めるか、船と陸部分のバランスなどを鑑み、雲、船のスケールをより大きく、より説明的に調整している。本作には、ほぼ原寸大の下絵が存在する（筑紫女学園大学所蔵）。これは構図だけでなく人物の手足の動きに至るまで隅々を鉛筆かコンテで示す線画であり、手で扱えるサイズの習作を多く手掛けた後でこの原寸大の下絵を作り、最終的に本紙に引き写して、輪郭を埋める要領で彩色したと考えられる。なお、数少ない油彩の習作には例外的な試みが見られる（No.19～22）。波の模様や配色など完成作にはない配色や図案化が見られ、油絵具を扱う際に即興の要素が強まっているようだ。

まとめ

以上のように、《博多繁昌の図》は、考古学の専門家の監修に基づいた歴史絵図とすること、作者の造型的関心、依頼者の1950年代における商業の発展を祈念する図であること、という複数の意図を踏まえて構想されている。ヴァリエーション豊かな習作は、依頼主や協力者との連携のもとさまざまなアングルで主題となるイメージを想像し、細部を決定していく和田の制作プロセスと、複数のレイヤーを一枚の画面に収める離れ業の舞台裏を示している。

出品作品

※ 記載は、題名（日英）、当館分類番号、制作年、技法・材質（日英）、画面寸法（縦×横cm）である。
◎…第五代太田清蔵氏寄贈（太田コレクション） ○…第六代太田清蔵氏寄贈

博多繁昌の図（習作） Study for “Scene of Prospering Hakata”

1	1-C-164	2	1-C-169	3	7-C-27	4	1-C-167
—	1952-58	—	1952-58	—	1958	—	1952-58
	水彩、鉛筆・紙		水彩、墨・紙		水彩・紙		水彩、鉛筆・紙
	watercolor and pencil on paper		watercolor and ink on paper		watercolor on paper		watercolor and pencil on paper
	55×85.2		27×42		26.4×41.4		41.9×27
	○		○		◎		○
5	7-C-16	6	1-C-158	7	1-C-171	8	1-C-160
—	1952-58	—	1952-58	—	1952-58	—	1952-58
	水彩・紙		水彩、鉛筆、インク・紙		水彩、墨、鉛筆・紙		グワッシュ、インク、鉛筆・紙
	watercolor on paper		watercolor, pencil and ink on paper		watercolor, ink and pencil on paper		gouache, ink and pencil on paper
	40.8×55.3		28.0×86.2		42×27		77.7×53.5
	◎		○		○		○
9	1-C-161	10	1-C-162	11	1-C-163	12	1-C-154
—	1952-58	—	1952-58	—	1952-58	—	1952-58
	墨、水彩、鉛筆、グワッシュ・紙		水彩、グワッシュ、鉛筆・紙		水彩、グワッシュ、鉛筆・紙		グワッシュ、鉛筆・紙
	ink, watercolor, pencil and gouache on paper		watercolor, gouache and pencil on paper		watercolor, gouache and pencil on paper		gouache and pencil on paper
	77.8×53.8		77.2×52.8		77.0×52.8		77.8×52.4
	○		○		○		○
13	7-C-24	14	7-D-7	15	1-C-156	16	1-C-157
—	1952-58	—	1958	—	1952-58	—	1952-58
	水彩・紙		墨・紙		墨、水彩、鉛筆・紙		墨、水彩、鉛筆・紙
	watercolor on paper		ink on paper		ink, watercolor and pencil on paper		ink, watercolor and pencil on paper
	66.4×60.1		75.1×53.3		79.6×55.1		79.6×55.0
	◎		◎		○		○
17	1-C-170	18	1-C-159	19	7-A-63	20	7-A-64
—	1952-58	—	1952-58	—	1952-58	—	1952-58
	水彩・紙		水彩、墨、鉛筆・紙		油彩・画布		油彩・画布
	watercolor paper		watercolor, ink and pencil on paper		oil on canvas		oil on canvas
	57.2×46.5		79.7×64.9		91.0×116.2		60.5×60.5
	○		○		◎		◎
21	7-A-82	22	7-A-67				
—	1952-58	—	1952-58				
	油彩・画布		油彩・画布				
	oil on canvas		oil on canvas				
	46.7×36.5		99.7×80.7				
	◎		◎				

博多繁昌の図 Scene of Prospering Hakata

23	7-A-80
—	1958
	油彩・紙
	oil on paper
	282.3×250.3
	◎